

インド総選挙の評価

2009年5月21日

(財)日印協会理事長

早稲田大学アジア太平洋研究科客員教授

平林 博

1. 選挙結果(議席数は末尾に添付)

(1) 国民会議派(Congress)とその連立政権である与党・統一進歩同盟(UPA)の明確な勝利。

Congress(党首 Sonia Gandhi)は、206議席(+61)で25年来の大勝利。特にデリー、ウッタル・プラデシュ、アンドラ・プラデシュ、ラジャスタン各州で勝利。他党と合わせたUPAとして、ハリアナ、パンジャブ、マハラシュトラ、タミルナド、ジャンム・カシミール、ケララの各州で勝利。ビハール州でも善戦。

UPAは、全体で543議席中262(選挙前に比し+61。5月21日現在。選挙直後の集計では257議席獲得、合従連衡によりさらに増える可能性あり)

(2) インド人民党(BJP)とBJPを中心とした野党・国民民主同盟(NDA)は、後退。

BJP(党首 L. K. Advani)は、116議席(-22議席)に大きく後退。グジャラート、カルナタカ、マディア・プラデシュ、チャティシュガール、ジャールカンドの各州では勝利。

NDAは、全体で157議席(選挙前に比し-16、5月21日現在。選挙直後の集計では158)

(3) 首相候補として取りざたされた党首 Mayawati(ダリト不可触民出身)のBSPは、UP州で善戦したが、党勢は思ったより伸びず(19 21)。

(4) 左派(二つの共産党ほか2党)は、大敗北(59 23)

(5) 第三、第四勢力の太宗を占める地方政党は、伸びず。一部の地方政党は、大きな敗北。

UP州のSP(党首 Murayam Yadav)は後退(36 22)

RJD(党首 Laloo Prasad Yadav)は、ビハール州でライバルのJD(U)(党首 Nitish Kumar)に大敗(24 4)。

BJD(党首 Naveen Patnaik)は、予想通り、オリッサで勝利(11 14)

AIADMK(党首 Jayalalitha)は、タミルナド州で与党 DMK に負けたが議席は獲得(0 8)。

TC(草の根会議派、党首 Mamata Banajee)は、西ベンガル州で大躍進(2 19)

2. 上記結果の原因

(1) Congress の勝利

- ・有権者が一貫して安定した政治を期待。とくに、現下の経済危機との関係で、経済政策面で評価の高い Manmohan Singh 首相を評価。
- ・マンモハン・シン首相の人柄(清潔、正直、一貫性等)への高い評価とソニア・ガンディー党首と

のうまい役割分担。

- ・貧困層、農民への配慮(National Rural Employment Guarantee, 農民の借金の棒引きなど)
- ・Rahul Gandhi・ कांग्रेस幹事長のダイナミズムと青年部の活躍 清新なイメージ、若者へ訴え。
- ・政治のカースト化(例・BSP) 反世俗主義(例・BJP)への国民の批判的態度。

(注:反世俗主義とは、「政教分離」のインド独立以来の国是に反して、政治への宗教の介入を許容する、とくにヒンズー至上主義を掲げることに対し反対すること。)

(2) **BJPの敗北**

- ・上記要因の逆。
- ・ヒンズー至上主義の行き過ぎ(例、オリッサ州などでのヒンズー過激派によるキリスト教徒、ムスリムなどへの迫害) 及び政治に宗教を持ち込んだことへの国民の反発。
- ・老アドヴァニ党首の人気低落と Narendra Modi 次期首相候補への国民の批判。

(3) **左派の大敗**

- ・左派4党は、時代の流れに取り残された。
インド人の高揚した国民意識との乖離。
左派の経済政策への反発。
最大の票田・西ベンガル州でのタタ財閥のナノ製造工場誘致失敗

(4) **第三フロント(BSP, 左派政党等の連合構想)の政権は遠のく**

- ・関係政党による政策や原則なき合従連衡への反発
- ・マヤワティへ党首への不信・不安感 初のダリト(指定カースト。以前のいわゆる不可触民)政権は遠のく。マヤワティは、UPAに接近。
- ・一部有力地方政党の大敗(UP州SP, ビハール州のRJD)

3. 内政の見通し

(1) 新政権

- ・Pratibha Patil 大統領は、Congress のマンモハン・シン首相に、新内閣の組閣を打診(5月21現在)。
UPA が絶対多数で政権を取るためには、第三、第四勢力の少数政党を多少取り込む必要あり(SP, RJD など)。すでに、SP、RJDなどは、閣内ないし閣外協力の意向を कांग्रेसに伝えている模様(同上)。
- ・マンモハン・シン首相は、今まで以上に強力な立場(ネルー首相以来、任期満了首相が総選挙で勝利した初めての首相) 左派などに気を使って妥協する必要なし・・特に米印原子力協力、経済改革路線では左派に遠慮する必要は消えた。
- ・ソニアと故ラジブの息子ラフル・ガンディー幹事長の人気急上昇、求心力強化。次期首相候補の地位を固めたか。
- ・アドヴァニ BJP 党首は、敗北の責任を感じて辞意を表明。しかし、BJP 幹部が止めた結果、党首継続。しかし、年齢(81歳)でもあり、いずれ後継問題が生ずること必至。次期党首として、BJPの中ではモディ・グジャラート州首相への期待は大きい。強硬なヒンズー至上主義とグジャラート州で起こった列車襲撃事件との関わり合いなどが問題として残る。

筆者（BJP - NDA政権下で、駐インド大使を経験）の意見では、BJPには、A . B . ヴァジパイ当時の首相（1998 - 2004年）のような包含力のあるリーダーの出現が待たれる。

（閑話休題）

（イ）次期第15国会では、初めて4人のネルー・ガンディー家出身が国会下院に議席を確保。

Congress のソニア・ガンディー党首と息子のラルフ幹事長。

ライバルのBJP のマネカ・ガンジーと息子のヴァルン。

いずれも、議席は、ネルー首相以来関係の深いウツタル・プラデシュ（UP）州。

ソニアは、タミール人過激派に暗殺された故ラジブ・ガンジー首相の未亡人。

マネカは、飛行機事故で亡くなった故サンジャイ・ガンジー（ラジブの弟）の未亡人。

（ロ）4人の女性政治家が注目の的。

第1は、ソニア・ガンディー国民会議派党首。故ラジブ・ガンディー首相の暗殺後、国民会議派に請われて政界入り。元イタリア人のため、首相になるには国民的抵抗感があり、党首の座に甘んじる。マンモハン・シン首相との「総総分離」（党総裁と総理の職を分担）。党幹事長ラフルのほか、政治的センスに優れた娘のプリヤンカの母。

第2は、マヤワティ BSP 党首。インド最大の州UPの州首相。ダリト出身の初めての全国政党党首、州首相。将来、UPA, NDAいずれもが政権を取れなくなる事態が生ずる場合には、インド首相に担ぎ出される可能性もある。そうなれば、インドで初めてのダリト出身首相となる。なお、大統領としては、ダリト出身の大統領がすでに誕生している（故N . K . ナラヤナン大統領）。

第3は、ママタ・バナジー草の根会議派党首。国民会議派からわかれた、西ベンガル州の小政党党首であったが、今回大躍進し、共産党の牙城を破った。タタの超小型自動車ナノの工場建設阻止に成功したのが、今回勝利の一因。ただし、ナノ撤退は、西ベンガル州の実益と声望を傷つけたともいわれる。

第4は、ジャヤヤリータA I A DMK党首。タミルナド州の女優出身のカリスマ政治家。変幻自在で大政党を揺さぶる。前国会には議席を確保できなかったが、今回9議席を確保。ただし、同州の与党DMK（UPAの一員）を破るにはいたらず、カルナニディ州首相との確執は続く。

（2）諸外国の反響

- ・米国、日本を含め、大きな安心感（安定政権、政策の継続性）
- ・インド民主主義への信頼感増大。
- ・国外インド人も高く評価。
- ・マンモハン・シン首相は、現下の大経済危機の下では、信頼感が抜群。選挙の結果が判明した16日の後の最初の株式市場Bombey Sensexがストップ高で、半日で17%以上の上昇。上昇率は上限を超えたため、市場は午後は占めることになるという熱狂的な反応。国内、海外の投資家が、インドを「買い戻した。」

（了）

(添付) 各党・各陣営の得票数(在インド日本大使館まとめ)

<u> कांग्रेसと友党(統一進歩同盟、UPA 陣営)</u>	<u>262 議席</u>
国民会議派(कांग्रेस、全国政党)	206 (+61)
全印草の根会議派(トリナムール・ कांग्रेस、TC、西ベンガル州)	19 (+17)
ドラヴィダ進歩同盟(DMK、タミルナド州)	18 (+2)
民族主義会議派(NCP、マハラシュトラ州中心だが全国政党)	9 (±0)
ジャンム・カシミール民族協議会(NC、J&K 州)	3 (+1)
ジャールカンド解放戦線(JMM、ジャールカンド州)	2 (-3)
ムスリム連盟ケララ州委員会(ケララ州)	2 (±0)
ケララ会議派(M)(ケララ州)	1 (±0)
全印ムスリム評議会	1 (±0)
解放の豹(VCK)	1 (±0)
<u> インド人民党(BJP)と友党(国民民主同盟、NDA 陣営)</u>	<u>157 議席</u>
インド人民党(BJP、全国政党)	116 (-22)
人民党統一派(ジャナータ・ダルU, JDU, ビハール州)	20 (+12)
シヴ・セナ(SHS)	11 (-1)
民族ローク党(RLD, ビハール州)	5 (+2)
シロマニ・アカリ党(SAD, パンジャブ州)	4 (-4)
アッサム人民会議(AGP、アッサム州)	1 (-1)
<u> 第三勢力</u>	<u>81 議席</u>
大衆社会党(BSP, ウッタル・プラデシュ州中心だが全国政党)	21 (+2)
インド共産党(マルクス主義)(CPI(M)、全国政党)	16 (-27)
ビーजू人民党(BJD, オリッサ州)	14 (+3)
全印アンナ・ドラヴィダ進歩連盟(AIADMK, タミルナド州)	9 (+9)
テルグ・デサム党(TDP、アンドラ・プラデシュ州)	6 (+1)
インド共産党(CPI、全国政党)	4 (-6)
人民党世俗派(ジャナータ・ダルJDS、カルナタカ州)	3 (±0)
全印フォワード・ブロック(AIFB, 左派、西ベンガル州)	2 (-2)
革命社会党(RSP)	2 (-2)
テランガナ民族主義(TRS, アンドラ・プラデシュ州)	2 (-3)
ハリヤナ公益会議派(BL)	1 (+1)
復興ドラヴィダ進歩同盟(MDMK, タミルナド州)	1 (-3)
労働者党(PMK, タミルナド州)	0 (-6)

<u>第四勢力</u>	<u>27 議席</u>
社会主義党 (SP, ウッタル・プラデシュ州)	23 (- 13)
民族人民党 (RJD, ビハール州中心だが全国政党)	4 (- 17)
人民権党 (LJP)	0 (- 4)
<u>その他</u>	<u>7 議席</u>
アッサム統一民主戦線 (アッサム州)	1 (+ 1)
シッキム民主戦線 (シッキム州)	1 (± 0)
ボドランド人民戦線 (ボドランド州)	1 (+ 1)
ジャールカンド開発戦線 (民主主義ジャールカンド州)	1 (+ 1)
ナガランド人民戦線 (ナガランド州)	1 (± 0)
その他	2
<u>無所属</u>	<u>9 議席</u>